No.210
2025年2月1日
滋賀県竜王町議会

りゅうおう

議会だより

未来を担う若者たちの第一歩

（関連記事は裏表紙を参照）

定例会報告 P2～ ふるさと納税大幅増額
委員会報告 P4～ 交流・文教ゾーンの公園整備
一般質問 P6～ 令和７年度予算編成は

12月定例会

12月定例会のあらまし

12月定例会が12月2日から12月23日までの22日間の会期で開かれた。

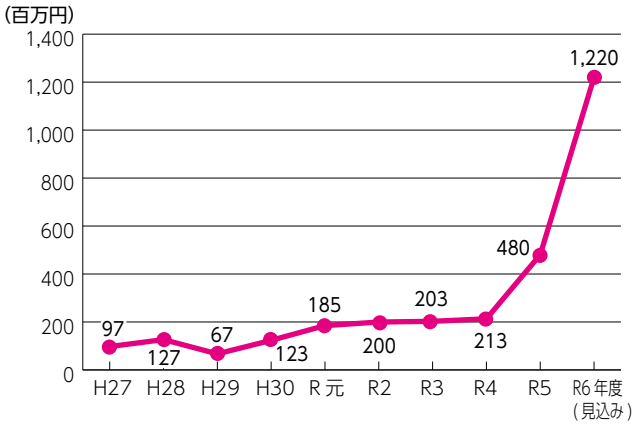
本会議2日目に条例2件と補正予算6件を可決し、一般会計補正予算（第7号）は予算決算常任委員会に審査が付託された。

本会議3日目に一般質問が行われ、11議員が町政をただした。（一般質問の記事は、P6以降に掲載している。）

最終日に本会議が開かれ、追加で条例2件、補正予算6件、工事請負契約の締結1件が提案され、即決で可決された。また、委員会に付託された令和6年度一般会計補正予算（第7号）が原案通り可決された。同時に、「防災・減災・国土強靭化対策の更なる充実強化を求める意見書」が提出され、可決された。

未来につなぐふるさと交竜寄附金（積立金）6億円増額で予算総額12億2000万円に（竜王町初）

万円に6億円の寄附の増加を見込んでいることから、返礼基金に積立て）です。



年度別寄附金額の推移

質疑？

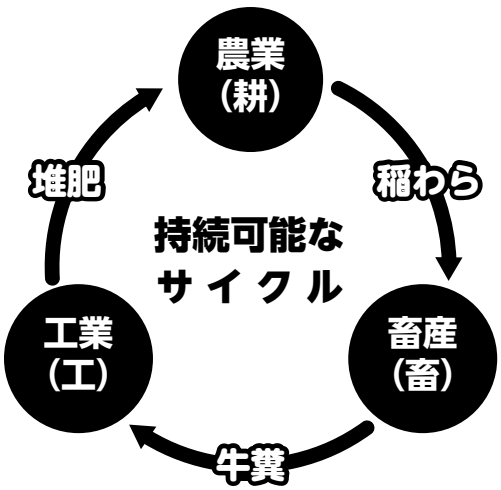
問 上記の寄附金の補正額が6億円と多額な金額を計上しているが、その背景は。

答 今回の補正予算後の予算額として、12億2000万円を見込んでいる。返礼品のジャンル別では近江牛関連が8割程度、近江米が11%などである。また、返礼品の金額の半分は「近江牛ハンバーグ」で、竜王町の原料を使った特産品として新たに開発している。

耕・畜・工連携バイオマス資源循環事業

バイオガス化プロジェクトの取組を進めていくにあたり、液肥の実証を加速度的に実施していくためなどに要する費用。

補正額100万円



バイオガス化プロジェクト
バイオガスと堆肥を製造

現予算総額（12月定例会時点）110億円を突破

一般会計

10億8079万円を追加し、予算総額が110億5563万円に

増額の大部分が、ふるさと納税推進費（現予算６億2000品などに要する経費）と積立金（本年度の寄附金は一旦、

南部地区消防ポンプ車庫設置工事

消防車庫の面積43・2㎡。構造はプレハブ工法の軽量鉄骨造り。場所は、岡屋地先。

補正額５００万円（総事業費　２０００万円）

竜王南部地区防災センター跡地

公民館排煙設備修繕工事

排煙機の経年劣化による更新。

補正額２０８６万円

修繕予定の排煙機のダクト

滋賀県単独土木建設事業負担金

左記の箇所について、事業費の20％を負担金として支出。

補正額５５０万円（負担金合計６００万円）

国道477号右折レーン設置（薬師地先）

県道春日竜王線の側溝改修（西川地先）

主要地方道彦根八日市甲西線の交差点改良（山之上地先）

県道小口川守線の竜王橋拡幅（小口地先）

第４回　臨時会

竜王小学校建設工事始まる

令和６年10月29日、臨時会が開催された。

請負契約の締結に「奥田・ヤマタケ・伊藤建設工事共同企業体」に対して、39億４２４０万円で随意契約をすることが提案され、賛成多数で可決された。

新竜王小学校の模型（町公民館に展示中）

令和７年１月より建築工事が始まっている

安全・快適・清潔な暮らしをめざして

12月11日に総務産業建設常任委員会の所管事務調査において、竜王町下水道事業経営戦略の改定について説明を受けました。

調査 竜王町下水道事業経営戦略の改定は

下水道事業を取り巻く環境が厳しさを増す中、健全で効率的な安定した事業を継続するため、投資・財政計画（収支計画）の見直しと経費回収率の向上に向けたロードマップの作成を行い、令和６年度中に改定する。

公共下水道事業と農業集落排水事業が対象となる。

【計画期間は令和７年度から令和16年度までの10年間】

マンホール蓋更新工事の様子

【改定のスケジュール予定】

資料収集、委託業者との協議等で原案を作成する

令和７年１月　上下水道事業運営委員会で説明

２月　関係機関へ説明、上下水道事業運営委員会で報告

３月　関係機関へ報告

竜王町下水道事業経営戦略の改定

社会みんなで支えるしくみ・介護保険

12月11日に教育民生常任委員会の所管事務調査において、「介護保険と高齢者施策」について概要の説明を受けました。介護保険サービスのうち通所介護（デイサービス）の内容は以下のとおりです。

調査 介護保険と高齢者施策は

デイサービスとは

通所介護施設（デイサービスセンター）に通って食事や入浴などの介護や機能訓練が日帰りで受けられる。

基本のサービスに加えて

・個々の状態に応じた機能訓練（個別機能訓練）
・食事に関する指導（栄養改善）
・口の中の手入れ方法や、咀しゃく、飲み込みの訓練法の指導等（口腔内機能向上）

などがある。

自己負担（１割）の目安は

【通常規模の施設／７～８時間未満の利用の場合】

要介護１	658円	要介護４	1,023円
要介護２	777円	要介護５	1,148円
要介護３	900円		

※食費、日常生活費は別途負担となる。

介護保険に関する相談は役場福祉課（☎58-3705）まで

近江うし丸

交流・文教ゾーンの公園整備

12月13日に地域活性化特別委員会で、「交流・文教ゾーン整備の進捗」について調査を行い、概要の説明を受けました。

調査 令和６年９月以降の経過と今後の予定および公園構想（案）は

経過

９月　下水道管布設工事契約締結
　　町道綾戸橋本西線道路改築工事（その３）契約締結
10月　＜公園整備＞
　　・アンケート調査実施（町民・小中学生）
　　・第１回町民ワークショップ開催
　　竜王小学校建設工事契約締結
11月　＜公園整備＞
　　・こどもまんなか会議意見聴取
　　・庁内ワーキンググループ開催
　　・第２回町民ワークショップ開催
　　竜王小学校建築工事説明（第２回区長会）

今後の予定

令和６年12月　道路工事（ラウンドアバウト）発注

ラウンドアバウトのイメージ図

令和７年 １月　下水道工事（マンホールポンプ）発注
　　竜王小学校建設工事着手
　　２月　＜公園整備＞
　　・第３回町民ワークショップ開催
　　・パブリックコメントの実施

「繋がる」きっかけとなる広場
～多世代の繋がり　地域との繋がり　原風景との繋がり～

町民ワークショップ、こどもまんなか会議、庁内ワーキンググループの主な意見は、次のとおりです。

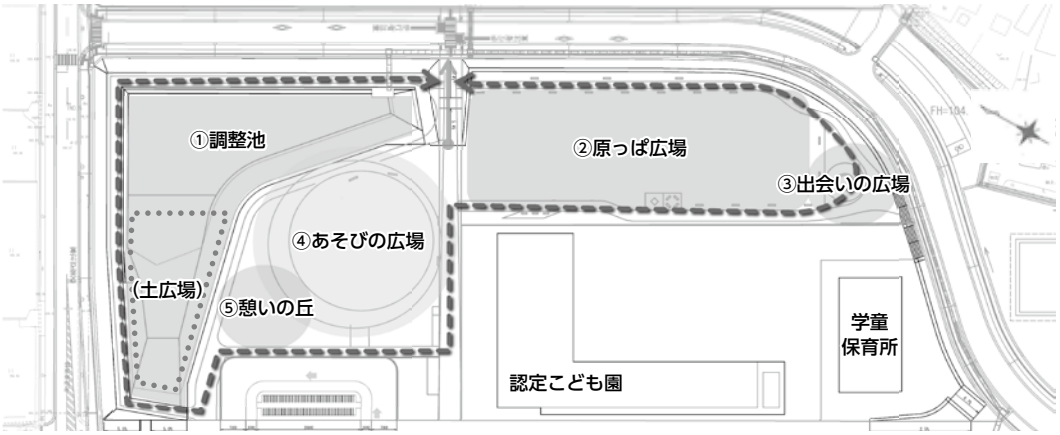
①調整池
- 浅い箇所をボール遊びなどができる多目的広場として活用

②原っぱ広場
- 山の眺望を楽しめる広場
- 日常も災害時も使いやすい人工芝の広場
- 日常利用できる防災施設の配置
- ベンチ、シェルター、トイレの配置
- 周回しやすい園路線形（600m／周）

③出会いの広場
- 小さい子どもから高齢者まで幅広い年齢層が来て交流できる場つくり

④あそびの広場
- 駐車場に近い北側に遊び場の設置
- 幼児から児童まで楽しめる、魅力的な遊具の配置
- 安全に配慮し、年齢層などでゾーンを区分

⑤憩いの丘
- 駐車場や遊び場に近い場所に休憩施設を設け、見守りつつ、山並みを眺めながら休憩できる場所つくり



↑詳しくは、広報りゅうおう１月号（P８・９）をご覧ください。

町政 ここを問う!

12月定例会では11議員が22問の一般質問を行いました。

一般質問とは、議員が町長などの執行機関に対し、事務の執行状況や将来の方針などについて所信や疑問を質し報告や説明を求めることです。

	質問者	質問事項
7	鎌田勝治	・GIGAスクール構想の現状は ・竜王西小学校の長寿命化計画は
8	磯部俊男	・町制70周年に向けての取組は ・学校給食の食べ残しの現状と対策は
9	山田義明	・広域行政組合での若者定着施策の検討は
	中村匡希	・コミュニティーセンターとは
10	橘せつ子	・町としてPFASの環境調査を ・企業誘致の進捗と文化財保護の在り方は ※就学援助費の引き上げは ※特別障害者手当の周知の徹底を ※中心核整備にかかる財政計画の見通しは
11	三宅政仁	・一時預かり「すくすく」の現状分析と改善は
	澤田満夫	・交通安全施設の設置基準は
12	大橋裕子	・災害時避難所に道の駅や企業施設は ・一時預かり「すくすく」の拡充を ※竜王町北部地区の開発と今後の動向は
13	内山英作	・自治会役員への女性進出を ・自治会活動連携の推進を ※町内周遊ウォーキング大会の開催を
14	若井政彦	・本町の水道施設は大丈夫か ・令和７年度予算編成は
15	森島芳男	・子ども読書活動推進の進捗は

※紙面の都合上、掲載しておりません。
QRコードから、全ての質問がお聴きいただけます。

各議員のQRコードをスマートフォンで読み取ると音声配信が聴けるよ

近江うし丸

次回の一般質問は 令和７年３月24日(月)予定

※日程は変更になる場合があります。
※議員の質問順は町ホームページでご確認ください。

問　議会事務局　電話　0748-58-3713

鎌田（かまだ）　勝治（かつじ）議員

問 GIGAスクール構想の現状は

答 一定の成果を上げたと評価し今後も事務改善に取り組む

問 GIGAスクール構想について伺う。
①ICT研究部会の活動状況は。
〈タブレット〉
②全教員がタブレット端末を有効活用できる取組は。
③端末の有効活用の判断基準は。
④教員のレベル差解消の取組は。
〈ICT〉
⑤ICTの学校と家庭での学習の現状は。
⑥ICTの役割とその効果は。また、家庭学習の今後の取組は。

答 ①今年度11月末時点で13回の部会を実施した。
②各研修会開催等で一定の指導方法で定着させる。
③県教委による年度末の調査が判断基準の一つ。
④統合型校務支援ソフトによる校務用端末の活用機会を増やす。
⑤授業での有効活用とAIドリル等の活用をしている。
⑥ICTの有効活用を多くの場面で進める。家庭学習部会を中心に家庭での活用を検討している。

ICT研究部会会議の様子

問 竜王西小学校の長寿命化計画は

答 令和10年度以降に長寿命化改修の方針

問 竜王西小学校の大規模改修による長寿命化は、過去から懸案となっている。
問題の根本的な解決も含めた計画立案の全体的な方針と概略のスケジュールは。

答 築40年を迎える令和10年度以降に長寿命化改修を行う方針である。
学校施設の便器の洋式化を含めたトイレ環境の根本的な解決は令和7年度に図る。
令和8年度から令和10年度にかけて、空調設備の整備を含めた体育館の長寿命化として設計・施工を行い、学びの環境の充実と防災拠点としての機能強化を予定している。
また、令和13年度から令和15年度にかけて校舎の全面的な長寿命化として設計・施工を行い、良好な教育環境を維持していく予定である。

改修を求められる竜王西小学校

問 町制70周年に向けての取組は

答 まちの魅力を再確認し、愛着や誇りを育くむ

磯部（いそべ） 俊男（としお） 議員

問 現時点での取組状況は。（国スポ含む）

答 町制70周年記念式典準備の他、記念事業の一環として、各種イベントを企画している。

70周年を祝うシンボルとして記念ロゴマークを作成した。さらに記念動画の撮影・編集を進めている。また、町民が主体的に実施する記念事業の支援のため、「町制70周年記念まちづくり活動支援事業補助金」を創設し、町民独自の取組による新たな活力の創造と交流やふれあいの促進を目指す。

国スポの機運醸成は、わたSHIGA輝く国スポ・障スポ竜王町実行委員会や竜王町地域振興事業団が実施する開催会場を活かした各種イベントにおいて、祝賀ムードが高まる取組を連携して進める。

佐賀県多久市
九州クライミングベースSAGAの様子

問 学校給食の食べ残しの現状と対策は

答 学校給食での食品ロス削減に努める

問 ①食べ残しの現状は。
②食べ残しの要因は。
③食べ残しの対策は。

答 ①こども園、小中学校で平均すると、食べ残し率は4.7％である。

項目別では、主菜2.1％、副菜7.7％、汁椀物5.9％、ご飯3.2％。

②時々、よく残すの回答が14％である。要因としては、時間が足りない36％、苦手なものがある40％。

③給食センター発行の「食育だより」による食品ロス削減への啓発や日々の給食指導等で食べ物や食に関わる人々への感謝を育む食育を推進している。

また学校では、健康づくり、体力づくりの重要性を学級指導や保健等の授業で指導し、食品ロス削減に繋がるよう努めている。

竜王こども園での給食風景

山田（やまだ）　義明（よしあき）議員

問 広域行政組合での若者定着施策の検討は

答 効果的な定住促進には有効でない

問 各自治体の力のみでは若者定着は難しい。2市3町で組織されている東近江行政組合で広域の力を結集し、この施策を講じては。

広域になると大きな力ともなり、例えば次世代における新たな産業育成のための産学連携、スタートアップ企業の誘致や支援、産業集積地等の誘致活動や国への助成活動等に有利と考えるが、町の見解は。

答 若者定着に関する施策については、地域間での競争の要素も強く、多くは近江八幡市や東近江市を定住先として選択されることが想定され、竜王町への効果的な定住を促進するには有効な手法ではないと考えている。

広域行政組合（東近江行政組合・東近江市）

中村（なかむら）　匡希（まさき）議員

問 コミュニティーセンターとは

答 公民館機能のある地域活性化拠点

問 町公民館を除却し、コミュニティーセンターへ再編する計画が示されている。
①コミセンとは何か。
②運営体制は。
③社会教育活動の継続・発展は。
④整備費の見通しは。

答 ①地域コミュニティの維持活性化を図る活動拠点であり、コミセンと公民館機能による相乗効果を生み出したい。

②行政と自治会の中間支援組織を担ってもらい、「自治会×自治会」の連携を実現したい。

③自己実現の支援や地域課題を解決する人材の育成をしていく。

また、有事の際の地域防災拠点機能や、外国人が地域活動に参画できるための学びの場を目指す。

④現公民館の規模等をもとに議論を始めた。コミセンの規模が分かった段階で示したい。

コミュニティセンター予定地（赤エリア）

問 町としてPFASの環境調査を

答 次年度以降、調査を実施する

橘（たちばな） せつ子（こ） 議員

問 ＰＦＡＳ（有機フッ素化合物の総称）の調査については、次年度予算の編成にあたり、町の環境調査項目に入れ、水道水、河川、地下水、工場排水等の調査をするべきと考える。調査の予算も含めて実施の考えは。

答 町は、国の要請を受け本年７月に水道水の検査を実施し、７ng／Ｌであった。国の暫定目標値50ng／Ｌを下回り、水道水の安全性に問題はないと考える。

また町内河川の状況を確認するため、今年度は１月下旬に善光寺川、祖父川、中津井川の３河川を調査する。日野川は、令和３、４年度に県が近江八幡市野村橋付近で調査をし、国の目標値以下であった。

次年度以降も水道水、町内河川の中で必要な箇所について調査を実施し、結果について町ＨＰ等で周知を図る。

地方紙「滋賀民報」より引用

問 企業誘致の進捗と文化財保護の在り方は

答 文化財保護等の法手続に沿い、企業誘致を図る

問 新たな３か所の企業誘致は現在どのような状況か。

文化財保護の観点からも、薬師山の文化財がある一帯は企業誘致地域から外すことはできないか。

答 新たな企業誘致の候補地の３か所で具体的な進出企業は決まっていない。興味を持たれた企業や不動産関連事業者と意見交換を行っている状況である。

本町にとって活力あるまちづくりに企業誘致は必須の課題である。当地が遺跡包蔵地であることは認識しているが、地権者や地元開発委員会では、将来的な土地の管理、自然災害等の対策から前向きな意見も多い。

開発は、文化財保護等の法手続きに沿い、関係機関と連携し適切な企業誘致につなげたい。

岩屋古墳（薬師地先）

三宅（みやけ） 政仁（まさひと） 議員

問 一時預かり「すくすく」の現状分析と改善は

答 事業の見直しに取り組む

問 こどもひろばを利用する生後6か月から満3歳までの子どもを持つ保護者を対象に一時預かりを行っている。

子育て世帯は共働きの家庭が多いためニーズに合った事業でなければならない。

①現在までの利用者数は。

②こどもひろばの利用が条件になっている理由は。

③事前予約の簡素化はできないか。

答

①令和6年度から実施している「すくすく」の11月までの利用状況は、延べ411人、一日あたり2.5人となっている。

②知らない場所や人に預けられることは子どものストレスとなる。子ども達が安心して過ごせることを第一に考え、こどもひろばを利用していることを原則としている。

③利用申し込み状況でパートタイム保育士の確保が必要であることから3日前予約としている。

今後は、初めての方が利用しやすい制度の研究と、近隣市町の制度も参考に事業の見直しに取り組む。

在宅で子育てをされている方々の負担を軽減

澤田（さわだ） 満夫（みちお） 議員

問 交通安全施設の設置基準は

答 明確な基準はないが、自治会要望を基に設置する

問 視界が遮られる道路部分には、危険予知を図るための交通安全施設があるがその設置基準は。

答 町管轄箇所の交通安全施設の設置までの手順は、自治会からの要望に基づき現地確認や警察等の関係機関と相談しながら対応している。

横断歩道などの法的拘束力がある交通安全標示等は公安委員会へ町から要望する。

設置基準は、防犯灯は町道かつ通学路等である交通需要の多い道路に対し設置することが定められている。

カーブミラーの設置は明確化したものはないが、町道や里道との交差点における交通量や危険度、車両または歩行者を目視確認するための見通しの状況、通行者数等を判断項目としている。

今後も自治会からの要望案件ごとに緊急性や予算との兼ね合いを図りながら設置する。

住宅により手前で目視確認ができない交差点

問 災害時避難所に道の駅や企業施設は

答 道の駅は「物資の輸送拠点」企業施設を地区避難所に

大橋（おおはし） 裕子（ゆうこ） 議員

問 災害時における避難所について伺う。

①指定避難所は北部に少ないため、道の駅竜王かがみの里を避難場所に指定できないか。

②竜王町で企業の施設を避難場所としている所は。

また今後企業の施設を避難所として使用する考えは。

答

①道の駅竜王かがみの里は、竜王町地域防災計画による「物資の輸送拠点」として、また、敷地内の休憩施設等は管理している国土交通省との覚書の締結により「一時避難場所」に位置づけられていることから指定避難所にすることは考えていない。

しかし、駐車場は一時避難場所として活用することは十分に考えられる。

②町内では松陽台自治会が地域にある企業と地域避難に関する協定を締結されている。

今後、地域と企業等が協定を締結し地区避難所とすることは可能である。

道の駅敷地内の休憩施設

問 一時預かり「すくすく」の拡充を

答 更により良い事業となるよう見直したい

問 竜王町には就学前の「こどもひろば」がある。令和6年4月から竜王町一時預かり「すくすく」が新設され、こどもひろばを利用している親子なら誰でも利用できる。

午前、午後とも最大利用人数3人で週2回まで利用でき人気があるが、急用で申し込みしたい人が利用できない。利用人数を増やす等多くのニーズに沿うよう町としての意見は。

答 「すくすく」は、当初の想定を上回る利用数となった。

委託先の社会福祉協議会と定期的に協議し、今後も利用定員、利用料、職員配置等の協議を重ねていきたい。保護者からの「利用人数を増やしてほしい」との声は聞いているのでパートタイム保育士の勤務時間を増やす等、更により良い事業となるよう見直しを行いたい。

「すくすく」で遊ぶ幼児たち

内山（うちやま）　英作（えいさく）議員

問 自治会役員への女性進出を

答 自治会への働きかけを進めていく

問 第３次竜王ベストパートナープランの基本目標の中で、「地域社会で女性も活躍できる場の拡大」とある。具体的には、「自治会において、男女が共に運営方針の立案や決定に参画できるよう働きかける」としている。

そこで、本町での自治会の女性役員が増えない要因と対策は。

答 要因として、性別による固定的な役割分担意識が依然として根強く残っていること、また、女性が参画しやすい自治会の仕組みづくりが十分でないことにある。

対策として、自治会への働きかけを進め、地域の話合いの中で女性の参画に関する地域ごとの課題について確認する。

計画の目標値（主なもの）

指 標	基準値（令和５年度）	目標値（令和10年度）
自治会３役に女性がいる自治会数	１自治会	６自治会

第３次竜王ベストパートナープランより引用

問 自治会活動連携の推進を

答 受け皿となる組織体制を模索していく

問 自治会によっては、今日までと同じ組織で活動することが既に困難になってきている。この現状を打破し、近隣の自治会同士が広域で考えられる自治会活動の活性化のための取組は。

答 自治会の自発的な意思により「（仮称）地域連合自治会」が設立されれば、事務の共同化等により負担軽減につながると考える。

まずは、自治会内での話合いを進めてもらうため自治会から要請があれば、自治会内の話合いにも参加している。

今後は、自治会同士をつなげる仕組みづくりが、必要となるので、受け皿となる組織体制を模索していく。

防災研修会（滋賀県主催の地域への出前講座）

問 本町の水道施設は大丈夫か

答 管路の更新、耐震化対策に努める

若井（わかい） 政彦（まさひこ） 議員

問
①管路経年化率と管路更新率とその評価は。
②管路耐震化率とその評価は。
③事故、故障等による給水影響を最小限に抑える対策は。

答
①法定耐用年数の40年を超過した管路経年化率は18・4％である。
管路更新率は3か年平均で0・51％で、全国平均0・67％より低いが、大口径管路を中心に更新している。
②基幹管路の耐震化率は22・6％で、全国平均42・3％からは低い水準である。
③管路等の漏水調査とともに効率的に管路更新を行っている。災害等の対策としては、緊急遮断弁で配水池の配水を止め、水がめとして一週間程度の飲料水を確保する。また加圧式給水車を一台配備した。

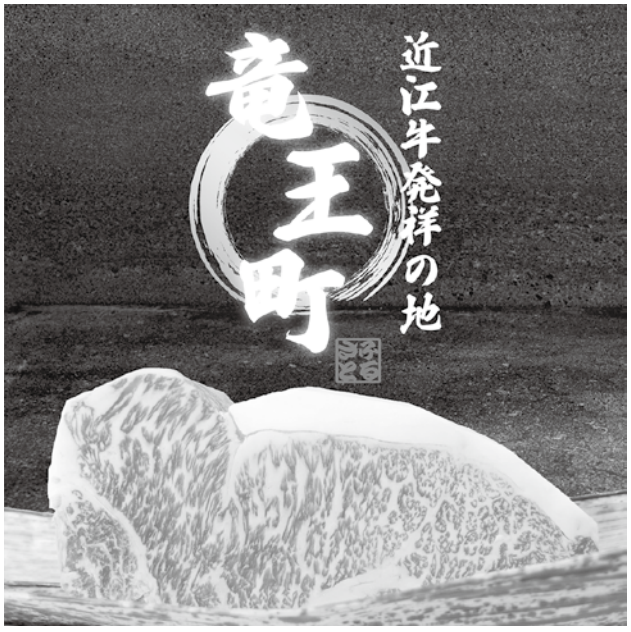
「いのちの水」重要な生活インフラ

問 令和7年度予算編成は

答 令和6年度と同様に厳しい

問
①予算編成での重点施策・重点事項は。
②歳入確保・財源確保の見通しは。
③新規事業および事業見直しへの考え方は。
④質の高い行政サービス・運営への体制は。

答
①・小学校の移転新築を含む中心核整備事業の推進。
・ふるさと納税の拡充や産業用地確保と企業誘致による財政基盤の強化。
・教育環境の充実、向上。
・バイオマス資源の地域内循環の実現。
・町制施行70周年と国スポの取組。
②税収は厳しい見込であり、町債の発行や基金の繰入も必要である。
③新規事業は十分な議論や検討をする。継続する事業は積極的に見直しを行う。
④行政需要の動向を見極め、適正な人員確保など体制整備に努める。



期待されるふるさと納税

森島（もりしま）　芳男（よしお）議員

問 子ども読書活動推進の進捗は

答 読書を楽しむきっかけづくりを働きかける

問 第4次竜王町子ども読書活動推進計画には「子どもの読書活動に関する施策の基本的方向を示すとともに、その具体的な取組のあり方を提示します」とある。
①園・学校、②家庭、③地域における具体的な取組は。

答 ①保育園・こども園では、乳幼児期での読書との関わりの重要性を踏まえ、読み聞かせを励行している。
小学校では、朝読書や有志による読み聞かせ活動をしている。
中学校では、朝読書、図書委員会による本の紹介などの充実に取り組んでいる。
②家庭では、町図書館でのおはなし会や読み聞かせなど保護者の読書への意識や関心を高める取組をしている。
③自治会や子ども会等が実施する行事に合わせ、子どもたちも楽しめる読み聞かせ等の本に親しむ機会づくりを働きかけている。

調べ学習をしている小学生
（竜王西小学校図書室にて）

追跡!! あの質問はその後、どうなった？

議員の質問に、町がその後どのように対応したかを、追跡・検証してみました。

町内の防犯対策、交番所を

（平成15年第3回定例会　一般質問より）

問 町内には駐在所が一つしかなく、夜間の対応は駐在所では出来なく近江八幡署で対応しているのが現実だと思う。今後のことを考えると駐在所ではなく、交番所が必要だと思うが、町の考えは。

答 竜王警察官駐在所の体制充実の必要性を認識しており、交番への昇格を視野に警察に要望をしていく。

今春より**「竜王交番」**に変わります
☆現在は、駐在所として、住み込みながらの日勤勤務が行われているが、今年の春からは「竜王交番」として運用が開始される。
・昼間は、交番勤務員が日勤勤務をされる。
・夜間は、必要に応じて他の勤務員がパトロールの拠点として利用される。

竜王町議会広報

■発行・竜王町議会
■編集・議会広報特別委員会

〒520-2592 滋賀県蒲生郡竜王町小口3
☎（0748）58-3713

シリーズ　がんばる私たち

子どもたちの「ありがとう」に励まされて

竜王西小学校絵本を読む会「ぽえむ」代表　大橋裕子

「ぽえむ」は平成12年９月に「絵本を読んでくださる方、募集」の学校の呼びかけに保護者20名が集まり、発足しました。子どもが卒業してからも地域の人となり月２回、朝の自習時間に各クラスに入り、子どもたちに絵本を読み続け24年になります。今も子どもたちからの「ぽえむさん、ありがとう」の言葉が私たちの励みとなっています。

また、子どもたちに竜王町を好きになってほしいとの思いから、ぽえむの有志が集まり、竜王町の昔話やお祭り、ならわし等をまとめ大きな紙芝居にしました。これを青少年育成町民会議やライオンズクラブ等のご支援により絵本化し、町内小・中学校の図書室や町立図書館、役場に置かせていただいています。

これからも子どもたちとの触れ合いを大切にし微力ではありますが、学校を支える力として取り組んでいきたいと思います。

作成した大型紙芝居・絵本

表紙

未来を担う頼もしさ

昨年12月7日、町公民館で竜王町地域共生社会推進フォーラムが行われ、小中学生による「竜王町こどもまんなか会議」の意見発表会が行われました。テーマは「自分たちが将来住み続けるには何ができるか」で、4か月間にわたる議論の結果が発表されました。

なかには、コンポストを増やした環境に優しいまちづくりや、チョイソコりゅうおうの停留所を増やした行き来のしやすい町、といった大人顔負けの提案がありました。

発表後には、青空の下でパチリと写真を撮りました。子どもたちの笑顔には頼もしさが垣間見えました。

杼木副町長より修了証が授与される

編集後記

令和7年は、町制70周年を迎える節目の年であり、国民スポーツ大会のスポーツクライミング競技が竜王町で開催されるなど、記念すべき取組が続きます。また、能登半島地震災害から1年が経ち、地域全体で支え合いながら、暮らしの豊かさや安心感をさらに育んでいく必要性を感じます。

今年は、新たな挑戦とともに、これまでの歩みを振り返り、未来に向けてどのような町を築いていくべきかを考える大切な節目となります。

特に若い世代の力を活かし、スポーツや地域防災、文化活動を通じて地域全体が活気づくよう、議会としても協力してまいります。

議会広報特別委員会
委員長　内山　英作
副委員長　橘　せつ子
委員　中村　匡希
委員　大橋　裕子
委員　澤田　満夫
委員　磯部　俊男

VEGETABLE OIL INK
環境に配慮し、再生紙及び植物油インキを使用しています